

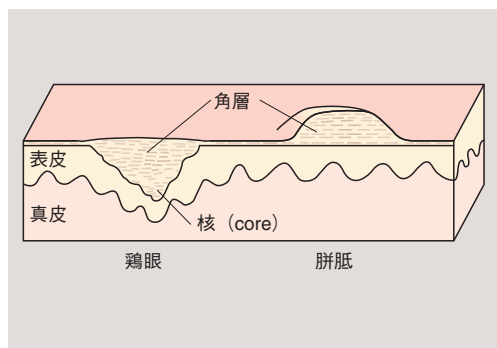


図 15.40 鶏眼, 胼胝の病理模式図



図 15.41 胼胝 (callus, tylosis)

3. 毛孔性角化症 keratosis pilaris

同義語：毛孔性苔癬 (lichen pilaris)

症状・病因・病理所見

上腕や大腿の伸側に、毛孔に一致した正常皮膚色～淡紅色、1～3 mm 大の角化性丘疹が多発する (図 15.42)。軽症も含めると 10 歳代の 30～40% に認められる。多くは学童期から発症し、思春期頃に目立つようになる。丘疹はザラザラした感触をもち、融合や拡大傾向を示すことはない。自覚症状を伴うことも通常ない。病理所見では毛孔が開大し、その中に角栓と捻転毛を認める。遺伝傾向があり、常染色体優性遺伝が推測される。また尋常性魚鱗癬やアトピー性皮膚炎を伴う例もある。

治療・予後

思春期を過ぎると自然消退する。対症療法として保湿剤またはサリチル酸ワセリンなどの外用。

4. 顔面毛包性紅斑黒皮症 (北村) erythromelanosis follicularis faciei (Kitamura)

同義語：erythromelanosis follicularis faciei et colli

耳前部から頬にかけて対称性に紅斑性局面を形成し、その上に毛孔一致性の角化性丘疹を認める (図 15.43)。若年男子に好発する。海外では毛孔性角化症の一型ととらえられており、四肢に毛孔性角化症を合併しやすい。



図 15.42 毛孔性角化症 (keratosis pilaris)